

都道府県・ 指定都市番号	13	都道府県・ 指定都市 名	東京都	研究課題番号・校種名	2(4)中学校
				領域名	ESD
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (4) ESDを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名(児童・生徒数)	おおたくりつおもりだいろくちゅうがっこう 大田区立大森第六中学校(362名)				
所在地(電話番号)	03(3726)7155				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="https://www.ota-school.ed.jp/oomoridai6-s/sitemap.html">https://www.ota-school.ed.jp/oomoridai6-s/sitemap.html</a>				
研究のキーワード	ホールスクール・アプローチ, SDGsカレンダー, 六中式単元指導過程, 大森六中ESDループリック, コンソーシアム				
研究結果のポイント	○SDGs達成に向けたカリキュラム・マネジメントとなるSDGsカレンダーの作成 ○「六中式単元指導過程」の作成 ○本校ESDに関する生徒の変容と「六中式単元指導過程」の指導効果に関する仮説 ○大森六中ESDループリックによる検証				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

研究主題「SDGsの達成に向けた学校教育の取組」 ～カリキュラム・マネジメントの工夫と主体的・対話的で深い学びの実践～
--

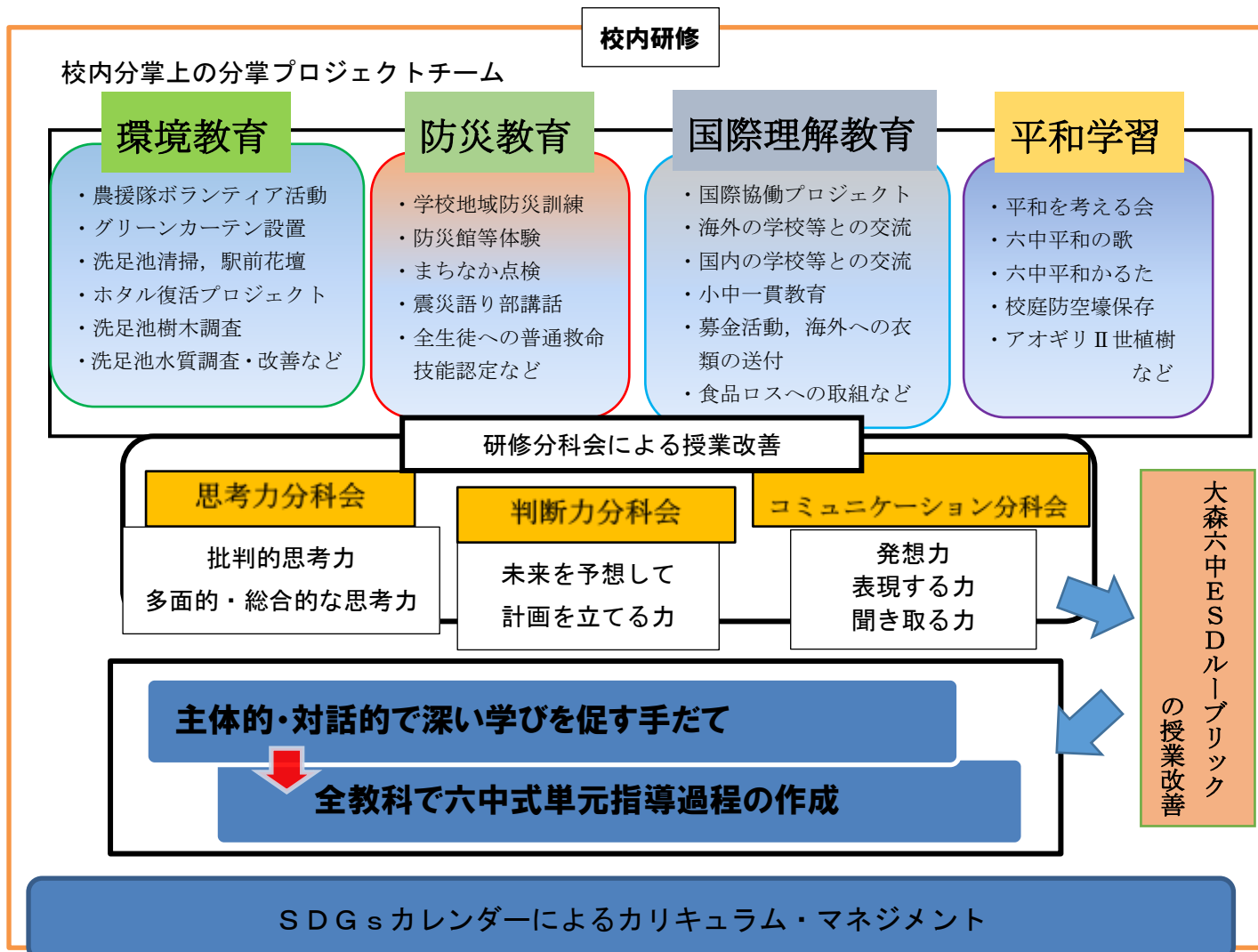
### (2) 研究主題設定の理由

昨年度の研究成果と今年度の研究課題(○成果●課題)

- SDGs達成に向けた教育課程の編成として、SDGsカレンダーを準備し、リーフレットを作成、他校でも活用できるようにした。
- 生徒自己評価指標「大森六中ESDループリック」の作成により、生徒の学習の深化を促した。
- SDGs カレンダーは、実践後のフィードバックを行い、今後も更新する必要がある。また、他国との交流にも活用できるよう英語版や、小中一貫教育としての系統的なSDGsカレンダーの作成を行う。
- ESD及びSDGsを全教育活動に普及するための教職員の連携体制及び地域との共同事業体を構成するコンソーシアムのさらなる整備が必要である。
- 生徒が自己の変容・成長を把握できるようなメタ認知の側面を強化した「大森六中ESDループリック」の分析と改訂が必要である。特に設問項目について発達の側面から修正を行う。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した単元指導計画「六中式単元指導過程」の仮説化と検証を行う。

●ユネスコスクールとしての本校の取組を、他校のESD推進及びSDGsの達成に寄与できるよう情報発信を図る。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和元年度	4月19日	新入生ESD オリエンテーション
	6月19日	第1回研究授業(理科)
	7月10日	第2回研究授業(数学)及び協議会
	6月	ESDアンケート集計，各教科・単元毎のルーブリック検討
	9月18日	第3回研究授業(国語)及び協議会 中間報告まとめ 中間研究成果
令和2年度	2月7日	1年目研究発表
	3月7日	学習成果発表会における生徒のふりかえり
	5月	研修会オリエンテーション 研究紀要原稿作成
	6月	生徒へのオリエンテーション (ESDとSDGs) 生徒ボランティア組織オリエンテーション
		SDGsと教科単元の関連性，学習指導案検討
	7月	研究授業及び研究協議
	8月	研究紀要作成
	12月	ユネスコスクール全国大会
2月	国立教育政策研究所 発表	
3月	学習成果発表会における生徒のふりかえり	

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ア SDGs達成に向けたカリキュラム・マネジメントとなるSDGsカレンダーの作成

従来のESDカレンダーを進化させ、カリキュラム・マネジメントとしてのSDGsカレンダーを作成し、毎年更新している。

#### イ 「六中式単元指導過程」の作成とその特徴

「主体的・対話的で深い学び」を具現化する「六中式単元指導過程」の開発を行い、ESDの視点からの授業改善に向けたアプローチを目指した。その特徴は以下の点である。

- ① 単元計画にあたっては、ESDにおける目標と関連する（考えさせたい）SDGsの項目を明記した。
- ② 単元において学ばせたい持続可能な社会の構成概念「多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性」との関連を示した。（何と何の関連なのか？）
- ③ 校内研修の「思考力分科会」「判断力分科会」「コミュニケーション分科会」の3分科会で、検討した単元における育てたい資質・能力を示すようにした。
- ④ 単元指導過程では、強い動機付けを有する根源的な問い、「エッセンシャル・クエスチョン」を提示することで、主体的な学び 対話的な学び 深い学びを生徒に体現させるようにした。

#### ウ 大森六中ESDルーブリックによる検証

本校が開発した自己評価「大森六中ESDルーブリック」を実施することで、生徒は自己変容に気付き、各教科の単元の振り返りを行い、自分がどの場面で頑張りを、成長を感じたかを改めて振り返ることで、次への課題とすることができる。

### (2) 具体的な研究活動

本校全教科で取り組んだ六中式単元指導過程により、生徒に持続可能な社会づくりの担い手としての自覚が生まれたのではないかと考える。一例として、理科の「動物の生活と生物の変遷」を以下に紹介する。

・本来、対話的な活動を促す手だてとして生徒同士の協働作業が必要となる場面で、コロナ禍による制約で、教師と生徒の対話形式で進める場面もあった。また、実験・観察は少人数で行えるように、9

【六中式単元指導過程（抜粋）】

教科 理科 単元名「動物の生活と生物の変遷（2年）」 授業者 OO-

1 教科 単元 2年 理科 《動物の生活と生物の変遷 植物の世界》

2 エッセンシャル・クエスチョン

生きるとは？

3 単元計画

1 細胞のつくり（3時間）……………①②③（中略）

4 SDGsと学習活動

授業 番号	学習内容	主体的活動を促す 手だて	対話的活動を促す 手だて	深い学びを促す 手だて	ESDで育て る力と評価	SDGs
1- ①	細胞のつくり	細胞の観察を行 い、細胞のはたら きを考えさせる。	植物と動物の細 胞から違いを比 較させる。	生物とは何かを 考えさせる。	A①②③ B④	13 15

5 他との関連

3年理科「生命の連続性」「地球と私たちの未来のために」2年保健体育「環境・健康について学ぶ」

ESDで育てる力と評価

図表は理科の授業 / 2021. 6 日 / 2020年

班制から12班制で実施した。

・「生きるとは？」というエッセンシャル・クエスチョンにおいて、「肉体的健康が優位か、精神的健康が優位か」という正解が1つではない問いについて協議し、既習事項と今後起こりうる事項を組み合わせ、生徒の内発的動議付けとする活動を行った。その結果を模造紙にまとめ、各学級での話し合いを学年、学校で共有した。



また、校内研修の一環として、令和2年度4月から2ヶ月間の緊急事態宣言下において、休校中に、全教員ができることを考えた。カリキュラム・マネジメントの基盤となるSDGsカレンダーを見直し、各単元でのエッセンシャル・クエスチョンを見つめ直し、ESDの構成概念に位置づけることで、「六中式単元指導過程」の基盤ができた。

### 3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

○・・・SDGs達成に向けたカリキュラム・マネジメントとなるSDGsカレンダーの作成  
SDGsカレンダーは、国内のみならず、海外へも発信している。このSDGsカレンダーは、さらに教科以外の部分も含めた全教育課程に視野を広げた新版へと、令和2年度、改良を行った。

○・・・「六中式単元指導過程」の作成と実践

SDGsの達成目標は2030年であるが、持続可能な社会の担い手として期待されている中学生は、それ以降も、地球が持続するための資質・能力を備えていなければならない。

六中式単元指導過程に位置づけた「エッセンシャル・クエスチョン」による認知的不均衡な状態の喚起で、生徒は、内発的動機付けが高まりSDGsに関連する学習課題を理解し解決を図ろうとする能動的な態度を養うことができると考える。

本研究では、教科毎に「六中式単元指導過程」をもとにした単元指導計画を作成したが、今後実践的検証を重ねる中で改良を図っていくことと指導事例の蓄積を行い、より汎用性を高めることが課題である。

○・・・大森六中ESDルーブリックによる検証

「大森六中ESDルーブリック」の数年間にわたる累積調査から、本校の生徒全体の傾向として、発想力や表現力不足が課題であったが、単元の中で内的動機付けとなるエッセンシャル・クエスチョンの提示や話し合いの場を多数設ける等、教師の支援の質を上げることで、生徒の発想力や表現力の向上が見られた。

●・・・「六中式単元指導過程」の教育効果の検証

教育方法のシステム化を図ろうと本校において工夫した「六中式単元指導過程」の「エッセンシャル・クエスチョン」がもつ認知的不均衡な状態による内発的動機付けの強化や討論活動、協働活動といった学習活動の反復による長期にわたる教育効果の検証が今後の課題である。

### 4 今後の取組

本研究における今後の課題から、持続可能な社会の担い手を育む教育は、本校が掲げた「六中式単元指導過程」におけるエッセンシャル・クエスチョンに他ならないと考える。

正解のない問の解を求め続ける営みこそが、ESDであり、まさに本校の研究は、オープン・エンドであることが、今後の本質的な課題であると考えます。

さらに「六中式単元指導過程」の汎用性を高め、他校へ周知すると共に、検証していきたい。